

研究課題名	Radiomics を用いた放射線治療の予後予測・治療効果予測の研究
研究の意義・目的	放射線治療を受けた患者さんを対象として、その予後や効果に関して CT や MRI といった医療用画像を用いて検討します。放射線治療はがん治療において重要な役割を果たしていますが、治療の効果についてはわからないことも多く、予後や効果予測ができるようになれば、効果がありそうな患者さんにはより放射線治療の強度を減らして副作用のリスクを下げたり、効きにくい場合には放射線治療の強度を増やすことで治療成績を向上させるといったことが期待できます。医療用画像を解析することで予後や効果予測ができる可能性があり今後の放射線治療の進歩に貢献する可能性があります。
研究を行う期間	承認日～2026年12月31日
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2010年1月1日から2021年7月31日までに国立がん研究センター中央病院と東北大学病院で根治的放射線治療を受けた患者を対象とします。 対象疾患は20歳以上の脳腫瘍、頭頸部がん、肺がん、食道がん、肝臓がん、膵臓がん、肉腫、リンパ腫、子宮がん、前立腺がん、直腸がん、肛門管がんとします。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	放射線治療を受けられた患者さんの医療用画像と臨床データを集め解析します。医療用画像は放射線治療前後また治療期間中の CT や MRI 画像、集める臨床データは症状、経過、年齢、性別、治療開始時年齢、疾患名、組織型、病期、前治療歴、既往歴、合併症、臨床検査値、治療歴、治療開始日、治療終了日、線量、照射方法、治療効果等の情報になります。
試料・情報の他機関への提供	本研究により得られたデータを取扱う際には、患者さんの秘密保護に十分配慮します。具体的には対象患者さんには研究番号を割り当ててデータを管理し、データの提供は匿名化された状態で受け取りを行います。対応表は国立がん研究センター中央病院の研究責任者が厳重に保管・管理します。
この研究を行っている共同研究機関	国立がん研究センター中央病院 放射線治療科 稲葉浩二 東北大学病院 放射線治療科 病棟医長 高橋紀善
試料・情報を管理する責任者	国立がん研究センター中央病院 放射線治療科 稲葉浩二 東北大学病院 放射線治療科 病棟医長 高橋紀善 大阪市立大学大学院 医学研究科 放射線診断学・IVR学 講師 立川裕之
本研究の利益相反	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	研究代表者：稲葉 浩二 国立がん研究センター中央病院放射線治療科医員 〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1 TEL：03-3542-2511